

## 2023年10月期 決算補足資料

2023年12月14日

東証スタンダード市場 証券コード3974

**SCAT** 株式会社

Solution and Creation All customers Together

ソリューションと創造を、全てのお客様と一緒に

(旧商号：株式会社ティビィシー・スキヤット)



1. 2023年10月期 決算の概要
  - ・ 決算ハイライト & 通期見通し
  - ・ 自己株式の取得報告
  - ・ 株主還元
  
2. 事業セグメント別ハイライト
  
3. 2024年10月期 業績見通し
  - ・ 計画概要
  - ・ 業績見通し
  - ・ 株主還元
  
4. 会社概要



# 決算ハイライト

---

2023年10月期 決算概要

**SCAT**

## 全社

## □ 通期概要。

- ・連結売上・経常利益は4期連続増収（美容ICT事業の大幅牽引）。
- ・原価増（円安・物価高）により**利益率が若干低下したが安定利益を確保**。
- ・好調なシステム販売の売上増とストック型売上の着実な積み上げ。
- ・好調セグメントが不調セグメントをフォローし実績増。

## □ 社会のDX化が好調を後押し

- ・DX認定事業者・IT導入支援事業者（ユーザーのIT導入補助金の採択増）
  - ・システム販売納品順調。
- ・コアビジネス（美容ICT事業）の新製品・新サービスを積極リリース（サロン集客支援サービス拡充）
  - 「Google で予約（Reserve with Google）」「楽天スーパーポイント連携」
  - 「LINEミニアプリ」・etc

## □ 法令改正（インボイス制度、電子帳簿保存法）の対応推進による拡販

- ・「楽楽明細」（㈱ラクス：東証プライム3923）とのアライアンス
- ・アライアンス拡充による新サービス提供（エムエイチグループ：9439）

## □ 「経営革新等支援機関」の認定

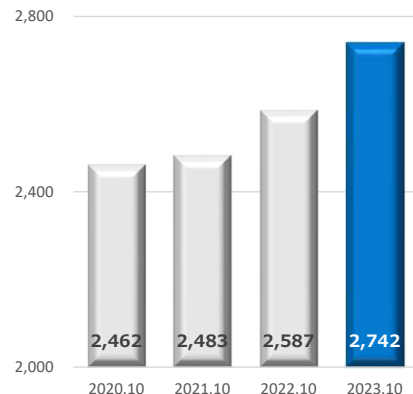
- ・中小企業クライアントのコンサルティング・サービスの拡充。

## □ 介護サービスはコロナ禍と物資・光熱費等高騰が直撃。

- ・地域密着型サービス（デイサービス）の休止。
- ・持病悪化によるご逝去が過去最高数（空室期間の増加）。
- ・業界的な介護離職者の増加（現場負担増）

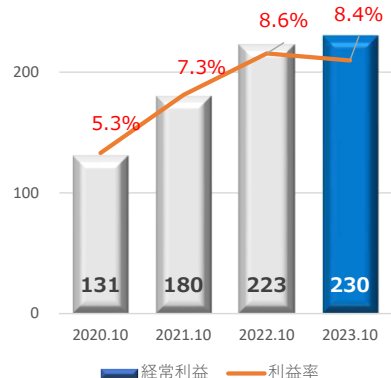
《連結売上高》

単位：百万円



《経常利益》

単位：百万円



単位：百万円

	2022年10月期	2023年10月期	増減率
売上高	2,587	2,742	+6.0%
売上原価	1,503	1,655	
売上総利益 (粗利率)	1,083 (41.9%)	1,086 (39.6%)	
販管費	859	858	
営業利益	224	227	+1.7%
営業外収益	2	8	
営業外費用	3	5	
経常利益	223	230	+3.5%
特別利益	71	34	
特別損失	135	23	
親会社株主に帰属する 当期純利益	100	157	+56.9%

## 《概要》

- 売上高：IT導入補助金の採択ユーザーの受注が好調。システム販売（物販）の納品が予定通り。ストック型売上を安定的に確保。
- 原価増：物価高騰（光熱費・食材・消耗品等）円安・半導体不足による品薄から仕入高値
- 営業外収益：介護施設光熱費高騰補助金など（5M）
- 特別利益：東京本社家賃の免除益（34M）。  
※前期はコロナ関連助成金；今期は無し。
- 特別損失：東京本社移転費用（14M）減損損失（5M）固定資産除却損（3M）など  
※前期：小山本社売却に伴う減損損失（56M）及び固定資産売却損（44M）など。

単位：百万円

単位：百万円

	2022.10期	2023.10期	増減
流動資産	2,047	1,520	▲527
現預金	1,765	1,209	▲556
固定資産	1,422	1,455	33
有形固定資産	852	885	32
無形固定資産	342	291	▲51
ソフトウェア	218	208	▲10
ソフトウェア仮勘定	68	42	▲25
のれん	51	37	▲14
投資その他資産	226	279	52
資産合計	3,470	2,976	▲494

	2022.10期	2023.10期	増減
負債	1,292	1,131	▲161
流動負債	655	523	▲132
固定負債	637	608	▲28
純資産	2,177	1,844	▲332
株主資本	2,183	1,847	▲336
利益剰余金	2,048	2,174	125
負債純資産合計	3,470	2,976	▲494

項目	2022.10期	2023.10期
営業キャッシュ・フロー	253	339
投資キャッシュ・フロー	112	▲135
財務キャッシュ・フロー	▲326	▲760
現金及び現金同等物の増減額	38	▲556
現金及び現金同等物の期首残高	1,726	1,765
現金及び現金同等物の期末残高	1,765	1,209

## □資産の部

- ・現預金：自己株式取得（462M）、当座貸越返済（200M）、東京本社移転関連（差入保証金（41M）、他）
- ・固定資産：差入保証金（東京本社移転）の増加（41M）

## □負債の部

- ・流動負債：当座貸越返済（200M）、その他増（35M）
- ・固定負債：長期借入金返済（61M）、資産除去債務増（27M）

## □純資産

- ・自己株式取得（462M）利益剰余金増（125M）

## □営業CF

- ・税前当期純利益（242M）、家賃免除益（▲34M）

## □投資CF

- ・差入保証金の差入（▲41M）・ソフトウェアVer-UP（▲85M）

## □財務CF

- ・自己株式（▲462M）当座貸越（▲200M）長期借入（▲63M）

## 《自己株式取得の理由》

当社は「学校法人ティビィシー学院」より、同社の保有する当社普通株式の全部について売却の意向表明を受けました。同社の保有する当社株式が短期間に市場で売却された場合の市場株価等への影響を考慮し、当該株式を自己株式として買い受けることを検討したところ、当該株式を自己株式として取得することは市場への影響を回避すると判断しました。よって下記のとおり自己株式の取得を実施いたしましたことを報告いたします。

## 《自己株式取得の内容》

(1) 取得した株式の種類	当社普通株式
(2) 取得した株式の総数	1,159,400株
(3) 株式取得価格の総額	462,600,600円
(4) 取得日	2023年1月11日
(5) 取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付

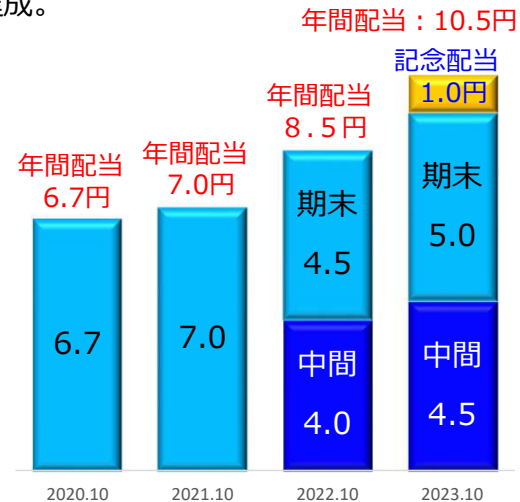
## 《自己株式取得後の概要》

- 発行済み株式数：5,240,000株
- 自社所有株式数：2,262,426株（所有割合43.17%）

## ■ 配当金（4期連続増配・記念配当の実施）

当社は株主還元について、業績に応じて適切に配当し、安定して継続することを基本方針としております。今年度も4期連続、中間配当、並びに期末配当とも前年度実績を上回る増配を達成。

	1株あたり配当金（円）		
	中間配当	期末配当	年間配当
2020年10月期	—	6円70銭	6円70銭
2021年10月期	—	7円00銭	7円00銭
2022年10月期	4円00銭	4円50銭	8円50銭
2023年10月期	4円50銭	6円00銭 （普通配当5円） （記念配当1円）	10円50銭 （普通配当9円50銭） （記念配当1円00銭）



## ■ 株主優待制度

所有株式数	内容
100株以上300株未満	QUOカード（500円相当）
300株以上	QUOカード（1,000円相当）





# 事業セグメント別ハイライト

2023年10月期

---

**SCAT**

※各事業セグメント合計値との差額は不動産等収益によるものです。

単位：百万円

	2022年10月期	2023年10月期	増減率
売上高（※）	2,587	2,742	+ 6.0%
美容ICT事業	1,492	1,684	+12.8%
ビジネスサービス事業	316	313	▲ 1.1%
介護サービス事業	759	726	▲ 4.4%
セグメント利益（※）	224	227	+ 1.7%
美容ICT事業	144	164	+13.4%
ビジネスサービス事業	▲0.7	11	—
介護サービス事業	69	42	▲38.6%

### 美容サロン ICT

受注は好調を維持。IT導入補助金採択ユーザーの納品が順調に実施。（計画通りの進捗）

- ①サロン集客支援サービスの拡充（Google予約・LINEミニアプリ連携・楽天ポイントなど）
- ②「楽楽精算」（株）ラクスとのアライアンス（美容ディーラー向け販売管理システム）

### ビジネス サービス

コアの会計サービスは増収・増益。  
お客様からの口コミ、地銀・土業からの新規紹介が増加。  
外国人技能実習生向け支援サービスは撤退（2Q）。

### 介護 サービス

介護付き有料老人ホームの空室が増加。（入居者数は増加したが、既存入居者のご逝去も増えた）  
コロナ集団感染防止のためデイサービス等の一部利用休止措置や利用控え。  
食材及び水道光熱費等の高騰による減益。

## 事業概要

- ・美容サロン向けPOSシステムの販売（レジ・CRM・予約管理）
- ・美容ディーラー向け販売管理システムの提供
- ・Webコンテンツの提供（予約システム・ポイント連携）
- ・保守サービス

2023.10実績

売上高 **1,684** 百万円

2022.10実績 1,492百万円

2021.10実績 1,395百万円

2020.10実績 1,355百万円

《売上》

単位：百万円



2023.10実績

セグメント利益 **164** 百万円

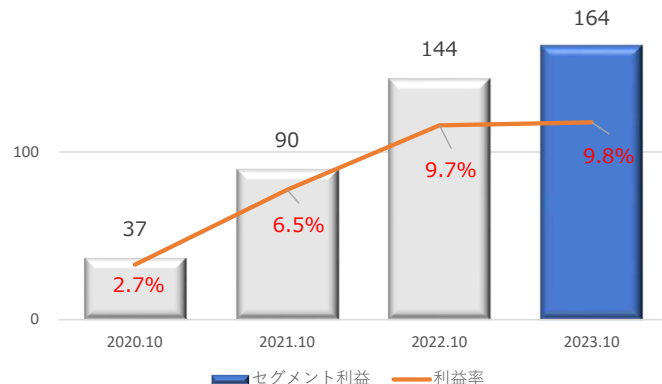
2022.10 実績 144百万円

2021.10 実績 90百万円

2020.10 実績 37百万円

《セグメント利益》

単位：百万円・%



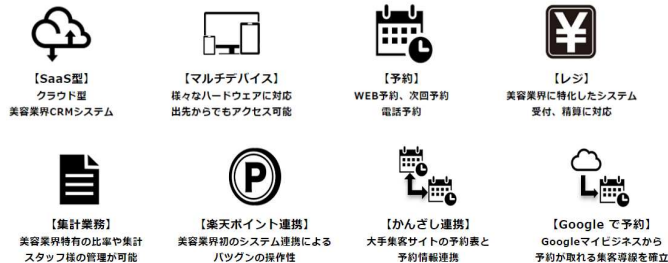
■ 商品品質・サービス品質の向上 : システム販売 (物販) に **Plus 1**

→ 中長期にわたり蓄積されたノウハウや技術の詰まった商品群  
データに基づいたソリューション営業を推進

システム販売 (POS型CRMシステム)



コンテンツの提供



美容ディーラー向け販売管理システム



- サロン向けEC連動
- インボイス対応
- 電子帳簿保存法対応
- BK 口座振替連携
- 楽楽明細との連携





美容サロンにおけるDX推進サポートの一環として、2023年2月1日より美容サロン様専用のPOSシステムと「LINEミニアプリ」との連携を提供開始！

## ■ 『LINEミニアプリ』とは

WEB予約などのサービスを「LINE」アプリ内で提供するWEBアプリケーションです。

## ■ POSシステム (Sacla・BEAUTY WORKS) との連携

美容サロン様は、POSシステムのCRM分析により抽出されたエンドユーザー様の【LINE】へ公式アカウントから来店促進等のご提案が可能となります。





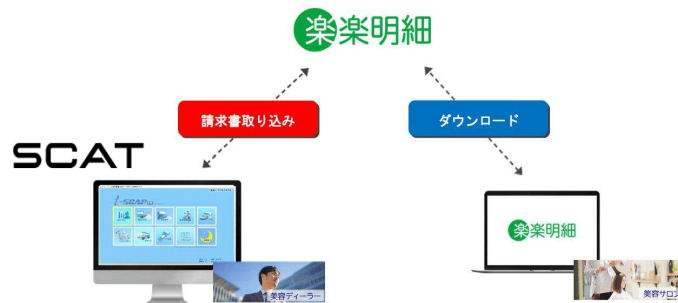
美容ディーラー（美容商材業者）のバックオフィス業務の改善による生産性向上を目的に、クラウド型電子請求書発行システム「楽楽明細」を提供する「株式会社ラクス」社と販売パートナーとして販売開始

## ■ 販売管理システム（i-SCAP EX）との連携

美容ディーラー様は、TBCSCAT提供の販売管理システム（i-SCAP EX）より出力された請求書を「楽楽明細」に取り込み、美容サロン様へ請求書をオンラインで発送することが可能となります。

- ① 帳票の印刷・封入・発送の手間がゼロ
- ② 電子発行への切り替えで紙代、印刷代、郵送費などのコストを削減
- ③ 再発行依頼や発送状況確認などの問合せがラク

※「楽楽明細」は、改正電子帳簿保存法、インボイス制度に対応したWeb帳票発行システムです。



- 株式会社ラクス 会社概要
- 代表者：中村崇則
- 住 所：東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 7F
- 事業内容：クラウドサービス事業
- 上場市場：東証プライム市場（3923）
- 企業URL：<https://www.rakus.co.jp/>

経済産業省の **IT導入補助金2023** において、  
今年度も「**IT導入支援事業者**」に採択されました。

IT導入補助金は、中小企業事業者等が課題やニーズに合ったITツールを導入する経費の一部を補助することで業務効率化・売上アップをサポートする経済産業省の制度です。

具体的には、中小企業などが働き方改革や賃上げ、インボイス制度導入などに対応できるよう生産性向上に役立つITツールを導入するときに受けられる補助金です。

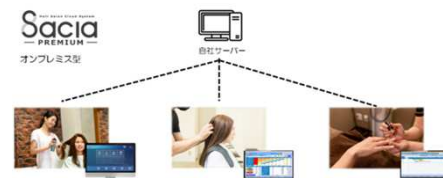
IT導入補助金2023では、デジタル化基盤導入枠における2年分のクラウド利用料やハードウェア購入の補助対象化と補助率の引上げが継続されるほか、より安価なツールも購入できるよう、補助金の下限金額の見直しや撤廃が行われました。

※) 詳細は、「中小企業IT導入補助金」をご参照ください。  
[https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/yosan/r4/r4\\_it.pdf](https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/yosan/r4/r4_it.pdf)

## 《対象商品》

### ■ Sacla PREMIUM

製品：理美容業界専用CRMシステムPOSレジ  
対象：美容サロン、ネイルアッシュ、  
リラクゼーション業界対応



### ■ BEAUTY WORKS

製品：SaaS型的美容業界専用POSシステム  
対象：同上



### ■ i-SCAP/EX

製品：販売管理システム（インボイス対応）  
対象：美容ディーラー等理美容業界対応機種

## DX推進により美容サロンの課題を解決し、経営の効率化及びキャッシュレス化を促進する。

当社は、ヘアサロン「モッズ・ヘア」を運営管理する株式会社エム・エイチ・グループの連結子会社である株式会社ライトスタッフと連携し、理容業界で初となる包括的なBtoBクレジット決済サービスの提供を開始する。（2023年秋ごろから提供開始を予定）

## ■ サービス概要

当社は、ライトスタッフ社と美容サロン向けソリューション商品の販売における相互協力関係を築いております。

本サービスは、ライトスタッフ社が、クレジット会社の株式会社ジェーシービー、株式会社ジャックス、及びソニーペイメントサービス株式会社と協働した、理容業界初の包括的なBtoBクレジット決済サービスです。



## ■ 本サービスの活用事例

- ・理美容サロン：
  - ・仕入代金のクレジット決済による経費管理の簡素化
  - ・資金管理の一元化、
- ・美容商材メーカー：
  - ・クレジット決済による売上債権の未回収
  - ・リスクの軽減や業務の効率化
  - ・DX化に伴う経営の合理化

- 株式会社エム・エイチ・グループ 会社概要  
 代表者：半澤 勝己  
 住 所：東京都渋谷区千駄ヶ谷1-11-1  
 上場市場：東証スタンダード：9439  
 グループ会社：株式会社アトリエ・エム・エイチ  
                   株式会社ライトスタッフ  
                   アーツ株式会社  
                   株式会社オンリー・ワン  
 企業URL：<https://mhgroup.co.jp/>



事業概要

- ・ 中小企業向けバックヤードサービス（会計サービス・給与計算等）
- ・ 認定経営革新等支援機関によるコンサルタント業務
- ・ 事業承継・M&A・保険代理店サービス

2023.10実績

売上高 **313** 百万円

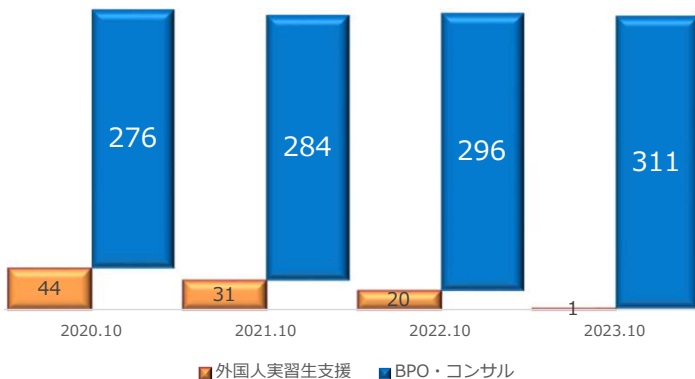
2022.10実績 316百万円

2021.10実績 315百万円

2020.10実績 321百万円

《売上構成》

単位：百万円



2023.10実績

セグメント利益 **11** 百万円

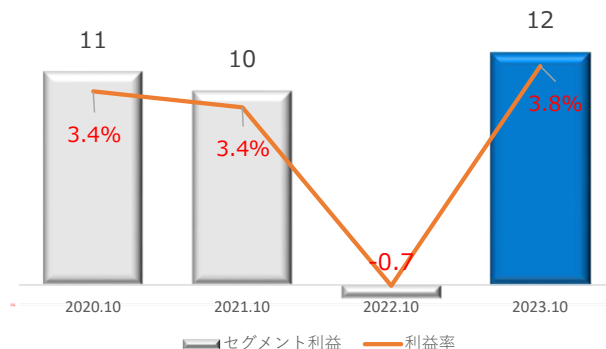
2022.10 実績 ▲0.7百万円

2021.10 実績 10百万円

2020.10 実績 11百万円

《セグメント利益》

単位：百万円・%



中小企業向けビジネスサービス事業では、中小企業支援のためコア業務である会計サービスを中心に、各種サービスを提供。当事業年度は、業務の選択と集中によるボトムアップを実施いたします。

## ■ コア業務

中小企業向け会計サービスを中心の経営支援  
(重点実施：クライアントのデジタル化支援)

- 経理代行・事務代行
- 決算代行
- 給与計算代行
- ソフト導入支援（会計・販売管理等）
- リモートサービス



## ■ 伸長業務

中小企業庁の認定  
「経営革新等支援機関」によるコンサルティング

- 経営力向上コンサル
- 先端設備導入コンサル
- 経営革新コンサル
- 事業再構築コンサル
- その他コンサル

### 【導入事例】

- ・ものづくり補助金を活用したドローン測量導入  
<https://www.scat.inc/news/2022/11/07/255>
- ・経営力向上計画による先端設備導入コンサル  
<https://www.scat.inc/news/2023/02/20/275>

## ■ 登録支援機関（出入国在留管理庁登録）の業務撤退（2023年4月末）

→ 外国人技能実習生や特定技能外国人の受入企業の人事・総務業務の代行の撤退

## 事業概要

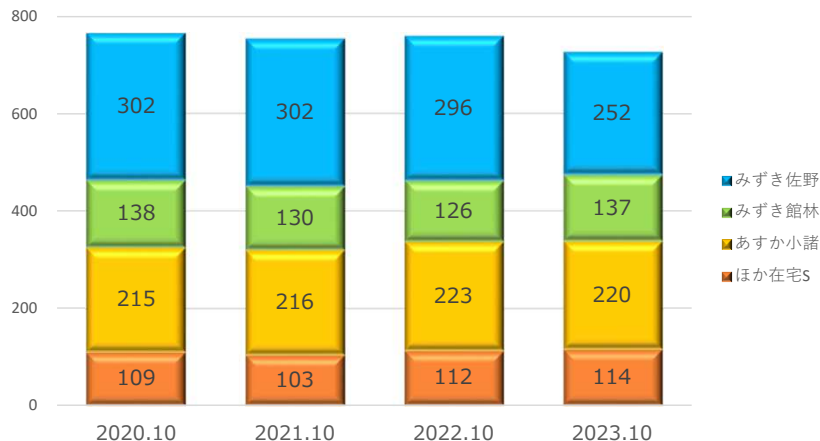
- ・ 介護付き有料老人ホームの運営（3施設）  
（栃木県佐野市・群馬県館林市・長野県小諸市）
- ・ 在宅介護サービス（1拠点）（長野県小諸市）

2023.10実績	売上高	<b>726</b> 百万円
2022.10実績		759百万円
2021.10実績		753百万円
2020.10実績		765百万円

2023.10実績	セグメント利益	<b>42</b> 百万円
2022.10 実績		69百万円
2021.10 実績		66百万円
2020.10 実績		67百万円

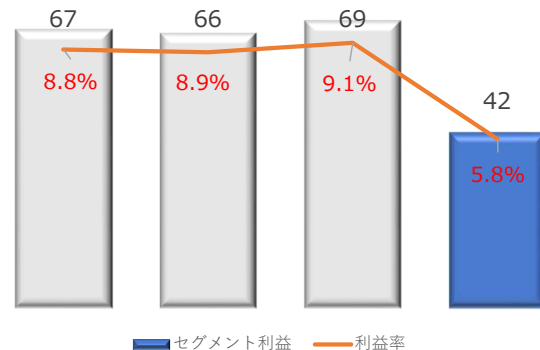
《売上構成》

単位：百万円



《セグメント利益》

単位：百万円・%



## ■ 介護付き有料老人ホーム運営（3施設：定員約160名）



みずき佐野（栃木県佐野市）



みずき館林（群馬県館林市）



みずか小諸（長野県小諸市）

栃木県佐野市（約70名） 群馬県館林市（約30名） 長野県小諸市（約60名）

※）ご夫婦で入居により若干の変動有り。

- ご家族・口コミによる高い施設評価
- **入居一時金なし**による入居しやすいシステム

## ■ 介護事業の原点

介護を通して地域に貢献。安らぎと活力を提供する。



やすらぎと安全安心な  
介護サービス



自由でわがままな  
暮らしの実現



元気の源は  
おいしい食事から

## ■ 自由でわがままな暮らしの実現

自宅と出来るだけ変わらない自由でわがままな暮らしの実現  
安心・安全・快適な介護サービスの提供

- ・ **快護**：介護ではなく**快護サービス**（介護福祉士割合高い）
- ・ **食事**：素材にこだわった心を込めた手づくりの食事を提供
- ・ **環境**：高級感あふれる落ち着いた住環境



## ■ BCP（事業継続プログラム）

大規模災害や感染症の拡大等の有事の際にも  
安心・安全な生活の実現の為の備蓄や計画を整備

## ■ 訪問型サービスの拡充

日常のちょっとした困り事のお手伝い（介護保険適用外もOK）  
→ **利用者とその家族のニーズに合ったサービス提供**

## ■ 働きやすい職場環境

- ・ 従来の週休2日に加え、**週休3日**制度の導入（正社員）
- ・ フリーバカンス休暇・資格取得支援
- ・ 永年勤続表彰制度・子育て支援プログラム等

※）とちぎ介護人材育成認証制度 **3ツ星**獲得





# 2024年10月期 事業計画・業績見通し

---

**SCAT**

Purpose

ICTの提供による中小企業支援を通じた社会貢献

2024年10月期  
財務目標  
マイルストーン

連結売上高：28億円  
連結経常利益：2.4億円  
経常利益率：8.5%以上  
ROE：8.0%・PBR：0.8倍

経営資源配分計画  
単年度2.8億円  
(投資方針：売上約10%)  
※M&A等を除く

成長その他投資  
100百万円

開発投資  
100百万円

DX推進投資  
50百万円

人的資本投資  
30百万円

基本方針：Plus1 —成長と深化の取り組み—

重点施策（グループ共通項目）

成長戦略  
価値創造

新サービス提供と業容拡大

商品品質・サービス品質の向上

Webマーケティングの加速

リスクマネジメント

個と組織  
の成長

人的資本のブラッシュアップ

多様な働き方・マネジメント向上

経営基盤  
の強化

サステナビリティ経営

コーポレートガバナンスの充実

企業価値向上目標  
(非財務目標)

- ◆ワーク・ライフ・バランス
  - ・各KPI目標のクリア
- ◆ダイバーシティ
  - ・男女雇用比 55：45
  - ・管理職男女比 8：2
- ◆業務効率：DX化計画の進捗
- ◆ガバナンス

単位：百万円

	2023年10月期	2024年10月期	増減率
売上高	2,742	2,804	2.3%
営業利益	227	243	6.5%
経常利益	230	243	5.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	157	160	1.6%

## ■ セグメント別見通し

単位：百万円

	2023年10月期	2024年10月期	増減率
売上高（※）	2,742	2,804	2.3%
美容ICT事業	1,684	1,693	0.5%
ビジネスサービス事業	313	320	2.4%
介護サービス事業	726	775	6.8%
セグメント利益（※）	227	243	6.8%
美容ICT事業	164	167	2.0%
ビジネスサービス事業	11	17	50.8%
介護サービス事業	42	47	11.4%

※各事業セグメント合計値との差額は不動産等収益によるものです。

## ■ 配当予想

当社は、「中長期的な企業価値向上」、及び「配当を通じた株主の皆様への直接的な利益還元」を経営の重要課題の一つであると認識しており、業績に応じて継続的かつ安定的に利益配分を行っていくことを基本方針としております。

年間配当予想：9円50銭（中間配当4円50銭、期末配当5円00銭）

※）現時点では、前年同様の配当（普通配当）を予想しております。

	1株あたり配当金（円）		
	中間配当	期末配当	年間配当
2024年10月期 予想	4円50銭 （前期据置）	5円00銭 （普通配当の増配）	9円50銭
前年実績 （2023年10月期）	4円50銭	6円00銭 （普通配当5円） （記念配当1円）	10円50銭 （普通配当9円50銭） （記念配当1円00銭）

## ■ 株主優待制度

「配当による株主還元」を重視しながら、株主優待については内容を検討する。

※）参考

所有株式数	内容
100株以上300株未満	QUOカード（500円相当）
300株以上	QUOカード（1,000円相当）





# 会社概要

---

**SCAT**

## ■ 商号変更について

当社は、2023年1月27日開催の「第55回定時株主総会」において、定款の一部変更が決議され、商号を変更することになりました。

### ◆ 旧商号

株式会社 ティビィシー・スキヤット

### ◆ 新商号

**SCAT** 株式会社  
(英語表記: SCAT Inc.)

### ◆ 効力発生日: 2023年5月1日

### ◆ SCATとは

**S**olution and **C**reation **A**ll customers **T**ogether  
ソリューションと創造を、全てのお客様と一緒に

## ■ 東京本社移転について

当社は、東京本社及び東京オフィスを統合し、移転いたします。

当社は、社員満足度を高め、働きやすい環境と生産性が向上する魅力ある職場環境の実現に向けて、東京本社と東京オフィスを統合し、移転することを決定いたしました。



(Googleマップより引用)

#### 《移転先》

東京都港区芝浦1-2-1  
シーバンスN館 2F

#### 《移転時期》

2023年10月

※) 当社の本店所在地は、栃木県小山市(小山本社)のため、本移転に伴う定款の変更はありません。

### ■ 業績への影響

本件の業績への影響は軽微であると判断しておりますが、今後業績に影響を与えると判断した場合は、速やかに公表いたします。

SCATは、ICTを活用し中小企業の経営をサポートするソリューション・カンパニーです。

## 基本情報

名称

SCAT株式会社

設立

1969年12月設立

資本金

2億円

代表

代表取締役社長 長島秀夫

小山本社

栃木県小山市城東1-6-33

東京本社

東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館

従業員数

連結200名（2023年10月末）

売上高

連結27億42百万円（2023年10月期）

事業

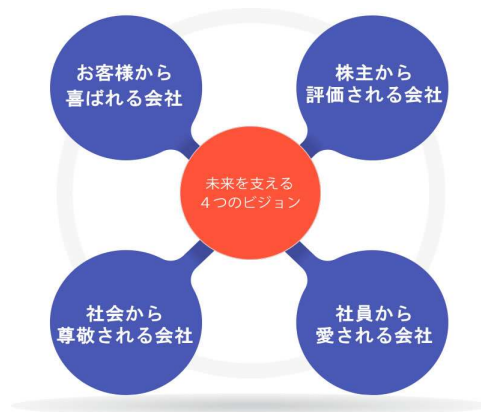
美容サロン向けICT事業  
中小企業向けビジネスサービス事業  
介護サービス事業

子会社

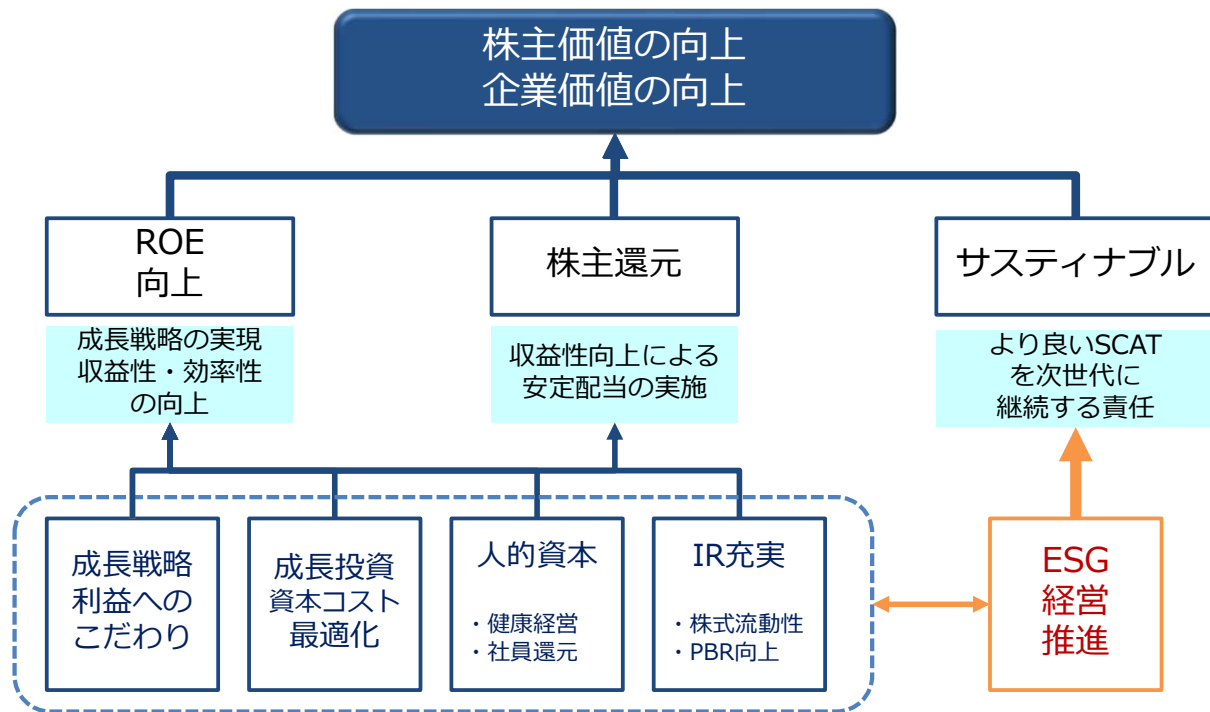
TBCシルバーサービス株式会社（介護）  
VID株式会社（美容ICT）

## 使命・理念

- ◆ ICTの提供による、中小企業への経営支援を通じた社会貢献
- ◆ 常に新しい商品、新しいサービスの開発に挑戦し、顧客の創造を事業目的とする。



SCATは、継続して成長を続けるために、企業価値の向上を図ると共に、常に変化への対応が必要と考えております。



- 資本の有効活用により、収益性向上とサステナビリティ経営を継続する。
- 継続性のある成長分野への投資を積極的に進めることで、企業価値向上を目指す。

マテリアリティ	中期目標	具体的な実施項目	関連するSDGs
環境問題への取り組み  <b>Environment</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代への地球環境</li> <li>資源リサイクルの促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーレス化推進（75%削減）</li> <li>再生エネルギーの活用</li> <li>環境にやさしい営業車の導入</li> </ul>	
豊かな情報社会・ ビジネス社会のDX推進  <b>Social (DX)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT利活用によるコミュニケーション社会の発展に貢献する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTシステム提供と普及（テレワーク）</li> <li>B to B to C におけるICT推進</li> <li>ビジネスの効率化（脱ハンコ）</li> <li>レガシーシステムをゼロにする</li> </ul>	
活き活きと活躍できる 社会の実現  <b>Social（働き方）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業を通じた健康と福祉への貢献</li> <li>多様な人財が活躍する働きやすい環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスの提供による高齢者支援と地域貢献</li> <li>多様な働き方とキャリア支援</li> <li>女性活躍の推進</li> </ul>	
公正で透明な企業活動 の実践  <b>Governance</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な成長を実現するガバナンス体制の維持・強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンスの高度化</li> <li>コンプライアンスの徹底</li> <li>健全な財務体質の維持・向上</li> <li>適切なリスク管理の実践</li> </ul>	

※) ESG経営は、環境(E: Environment)、社会(S: Social)、ガバナンス(G: Governance)を重視した経営であり、東京証券取引所が推奨。  
 ※) SDGsとは、国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）2015.9」をいう。  
 当社は、ESG経営の推進により、SDGs 達成に貢献できると考えております。

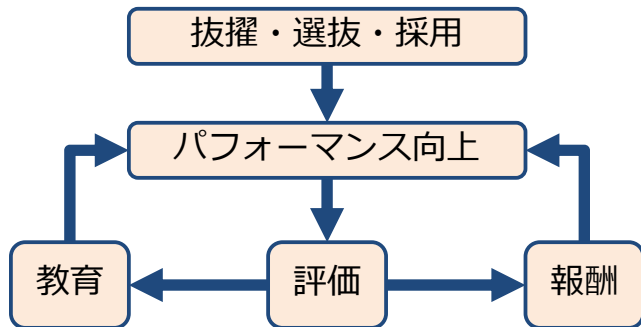
- 経営戦略に必要な人財の「質」と「量」のブラッシュアップ
- 継続的にリーダー人財を輩出する仕組みの構築と風土醸成

## ■ 人財活用

- ◆ 社員のエンゲージメント向上
- ◆ リーダー人財の抜擢・配置転換等の選抜等の人財活用
- ◆ 教育訓練や人財評価（目標管理・行動評価）に伴うパフォーマンスに応じた報酬体系改善

## ■ 働き方環境の改善

- ◆ 人財の「心と身体の健康」が未来にわたる企業価値を創出という共通認識の醸成
- ◆ 労働法令等の遵守
- ◆ 労務環境改善推進（自社制度の制定）



(リスキリング)

- 在宅勤務拡充
- 勤務間インターバル
- 公益通報拡充  
(ハラスメント防止対策)
- 育休・介護休制度拡充
- メンタルヘルス対応

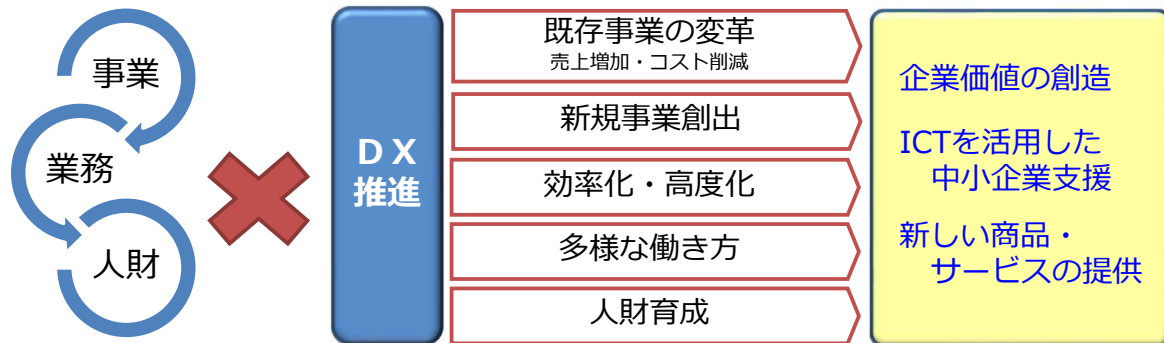
## ■ お客様向けDX推進

- 美容業界のDXパートナーとして躍進
- 中小企業向けDX推進サービスの提供



## ■ 社内でのDX推進

- 業務プロセスの合理的なデジタル化
- ネットワーク・セキュリティ強化
- 常に社内システムの刷新（新しいサービスや技術を積極的に活用）



## 《本資料に関する注意》

- ・この資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- ・本資料において提供される情報は、「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ・それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- ・今後新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

## 《問い合わせ先》

I R 担当者 : 執行役員 経営企画室 室長 高橋 栄  
E-mail : ir@scat.inc  
TEL : 03-6275-1130

東証スタンダード市場 証券コード3974

**SCAT** 株式会社  
Solution and Creation All customers Together  
ソリューションと創造を、全てのお客様と一緒に